

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	大阪市立豊新小学校
学校長名	高品 勝年

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立豊新小学校では、第6学年 81名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和6年度全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語科は6.6%であり、大阪市平均には達したが、全国平均では1.7%下回った。算数科は5.5%と大阪市平均を7%、全国平均では、8.4%下回った。

過去の調査結果から、本校は算数科を苦手とする児童が多く、今年度は、正答率を大きく下回った。しかし、平均無回答率は、国語科、算数科ともに全国及び大阪市平均を大きく下回る結果となり、児童が粘り強く問題に取り組み、解決しようとする意欲がみられる。

この結果を受け、個のつまずきを分析し、それに応じた課題を与える指導が必要である。また、反復学習を繰り返すことで習熟を図り、学力の向上を目指していく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

「話すこと・聞くこと」では、全国平均は下回ったが、大阪市平均を1.1%上回っている。また、「読むこと」でも大阪市平均を2.4%上回った。これは、授業形態の工夫や学習者用端末等により、思考力をもって文章を読み進め、考えを伝え合う活動を通して、主体的に学習を深められているといえる。しかし、「書くこと」については、全国及び大阪市平均を下回った。「書くこと」は「思考すること」であり、探求の学習活動を支える土台となる。伝えたい内容を正確にまとめ、相手が理解できる文章を書くことができるように、指導法の工夫が必要となってくる。

[算数]

全領域、全国及び大阪市平均を下回った。特に「変化と関係」では、大阪市平均を9.2%下回っている。これは、『図形』や『数量』について考えるときに、それぞれの変化や対応の規則性を読み解くこと難しいと感じている児童が多いと分析できる。また、記述式・思考力・表現力を問う問題の正答率が全体的に低い。算数科に対する意識については、ほとんどの項目で高い相関がみられ、算数科学習に対する苦手意識を持っていることが明確になった。

質問調査より

「自分には良いところがある」という自己肯定感、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」という自己有用感は、肯定的回答がそれぞれ85.2%、97.4%と全国の回答の割合を上回り、本校児童は、自己肯定感や自己有用感が高い。

家庭での生活については、家庭学習の割合が低い傾向にある。算数科を含む学習習慣についても全体的に低い傾向にある。しかし、「国語・算数が好き」と肯定的に回答する児童は、国語科が72.8%で算数科が54.6%と全国及び大阪市平均を上回っている。このことから、学習意欲高いが、学力につながっているとは言えない。特に算数科は、苦手意識を持つ児童が多い。一時間一時間大切にした授業に加え、計算学習等の補充的な設定や家庭学習の啓発等しながら、学力の定着を図る。

今後の取組(アクションプラン)

- ねらいを分かりやすく示しながら、どの児童も参加していける導入を工夫していく。また、児童の考えを引き出すような発問はもとより、学習内容を振り返ることのできる板書計画をし、自ら学習をまとめができるようにする等、授業改善を進め指導力を高める。
- 習熟度別授業を始めとした少人数指導の拡充を進め、個に応じた指導の充実を図るなど指導方法の改善に努める。
- 「学習教材データ配信」等を活用し、各教科の基礎的・基本的内容の定着率を高めるとともに、考え方や意見を伝え合う話し合い活動や“書ぐ”習慣を付ける活動を授業に取り入れながら学習内容の活用を図る授業を行う。
- 学習習慣を向上させる指導の徹底化を図る。

これらを通して、主体的で対話的な学びを進めていくと同時に、励ましや称賛、直接声をかける機会を増やす等、助言お与え方を工夫し、学ぶことの愉しさを今後も味わわせていく。